

Newsletter

Vol.47 2022.3.20

日本養護教諭養成大学協議会

日本養護教諭養成大学協議会
ニューズレターVol. 47
会 長 遠藤伸子 (女子栄養大学)

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ 目 次 ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

協議会副会長挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1	協議会活動報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
各種委員会活動報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2	関係団体連絡会報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
会員校から・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3	事務局・会計からのお知らせ・編集後記・・・・・・・・	4



副会長あいさつ

副会長 池添志乃
(高知県立大学)

日に日に寒さも和らぎ、暖かさが感じられるようになりました。会員校の皆さまにはいつも大変お世話になっております。

2020年に急速に広がった新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) は、未だに感染拡大がみられ私たちの社会生活を大きく変えています。新聞報道では、休校による生活リズムの乱れが子どもの健康に与える影響や生活変化、孤独感によるストレスの増大等が報告されています。これらと連動しながら、学校現場や基礎教育、現任教育、法律や制度なども様々な変遷をたどり、子どもを取り巻く環境や生活、抱える健康課題は大きく変化していることを感じます。

個人に起因しない健康に影響する社会的な因子、社会的状況は「健康の社会的決定要因 (SDH: Social Determination of Health) と言われています。健康に影響する主な社会的な要因として、社会経済状況や文化、環境などの社会構造、教育や収入の機会、雇用の有無や労働環境、さらには医療体制や医療保険制度といった生活環境、住んでいる地域のつながりや頼れる人の存在、個人の生活習慣等が示されています (Dahlgren and Whitehead, 1991)。たとえば、子どもの健康に影響する社会的な因子、社会的状況 (SDH) の一つとして貧困が挙げられます。現在、わが国における子どもの貧困率は13.5%で、約 7人に1人の子どもは相対的貧困にあり、子どもの生活や健康課題を

大きな影響を及ぼしていることが指摘されています。貧困の問題は、大学生においてもその健康生活に大きな影響をもたらしています。コロナ禍の現在、今後一つの要因だけでなく、複数の健康に影響する社会的な要因が健康課題の背景として顕在化してくることも予測されます。

養護教諭養成大学で教育を担う私たちの実践において、今起きている社会の変化をつかみ、さらには今後起こりえる健康課題やその背景を見通していくことが求められています。WHO において、健康に影響する社会的な要因、社会的状況 (SDH) を意識した支援を行うことの必要性が提言されているように、健康と社会的状況との関連をとらえながら、教育や研究に携わっていくことが一層重要となってくるのではないかと考えます。

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) により、甚大な社会的影響が各方面に及び、with コロナでのNew Normalに向けた行動変容や意識改革が求められる時代において、社会や学校現場はめまぐるしく変化しています。子どもの生活や健康に関わる課題も年々変化し、複雑化、多様化しており、個人に起因しない健康に影響する社会的な要因、社会的状況 (SDH) に気づき、理解する力が求められていることを実感します。健康に影響する社会的な要因、社会的状況 (SDH) をふまえたうえで、子どもにとっての最善は何か、子どもを全人的にとらえ子どもの成長発達を育む養護教諭を養成する教育として重要なことは何かを探求していくことは本協議会が担う重要な役割だと感じています。本協議会が担う役割は今後一層、拡大し、重要になってきますが、会員校の皆さまとともに達成できるように努めてまいりたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

各種委員会活動報告

「養成制度検討委員会」 「カリキュラム検討委員会」活動報告

委員長 大川尚子（京都女子大学）

本委員会では、本協議会独自の「養大協版コアカリ2020」を活用することで、養護教諭の資質の担保につながると考えます。コアカリキュラムの活用により、どの学問体系を基盤とする養護教諭養成課程においても、卒業時に獲得しておくべき力の明確化を図ることを目指しています。今期の検討委員会の活動は、コアカリキュラムの効果的な活用方法を検討することを目標としています。

第2回検討委員会を11月13日に開催し、来年度にむけてコアカリ活用についての実態調査の準備をするため、検討委員の大学で現在実施しているコアカリの活用方法を交流しました。引き続き、その取り組みをすすめ、第3回検討委員会を2月19日開催し、各大学が実情に応じてコアカリを活用していることを共有しました。来年度に向けて、検討委員会の大学の学生を対象に、時期や学年、調査内容を揃えて、コアカリの調査を実施してみようということになりました。

各大学（養成系の違い）における共通性と相違性、学生が理解できていない項目、それは教える側と学ぶ側を含め何に起因しているのかなど、弱みを把握して、次につなげていくことを考えています。

実態調査も含め、会員校の先生方のご意見をうかがいながら進めていきたいと考えています。よろしくお願いいたします。

「FD検討委員会」活動報告

委員長 鎌塚優子（静岡大学）

ファカルティ・ディベロップメント（FD）検討委員会では、メインテーマを「養護教諭養成教育における反転授業の活用」として計画を進めています。

具体的な活動内容

1) 反転授業の理解と実践

2022年度の養成セミナーのテーマを「反転授業の展開について」とし、養護教諭養成教育の科目を取り上げて、具体的に反転授業の展開を試みる予定です。受講した会員がすぐに授業実践につなげられることを目指します。

2) 研修プログラムの構築

養護教諭養成教育に関わる経験1～2年目の大学教員向けに、授業づくりの基礎基本を学ぶFDプログラムの開発を目的として、①オンデマンド型の研修コンテンツ（講義動画）の作成と掲載、②リアルタイム型の研修プログラム（演習）の企画と運営を行います。①は日本養護教諭養成大学協議会HP上への掲載（会員限定）とし、②は養成セミナーとは別に会員への還元としてワークショップとしての実施を行う予定です。

3) 活動報告

第2回検討委員会：11月29日にオンラインにて開催し、具体的な計画案を検討しました。

第3回検討委員会：2月3日にオンラインにて開催し、委員による反転授業の勉強会を実施いたしました。

「広報・渉外委員会」

亀崎路子（杏林大学）鈴木裕子（国士舘大学）

今年度の後半は、ニューズレター46号を12月に発行しました。内容は、巻頭言、2021年度総会報告、養護教諭養成フォーラム報告、養成セミナー報告、各種委員会報告、協議会活動報告などを掲載しております。ホームページは、役員会の活動報告、新型コロナウイルス感染症に関連する文部科学省からの通知、などを掲載しました。お役に立てる情報の交流ができますように、会員の皆様からのご連絡をお待ちしております。



会員校から

現在、全国の会員校は135校です。その評議員の皆様から、大学の近況、養護教諭養成に関してお感じになられていることや課題などをご執筆いただきます。

今回は、「養成制度検討委員会」兼「カリキュラム検討委員会」に新しいメンバーとして加わられた3名の先生方にご執筆をお願いしました。

コアカリキュラムを活用してみえてきた課題 毛利春美（畿央大学）

今年コアカリキュラム検討委員会のメンバーとして活動させていただきます。私は、養護教諭養成課程の看護学(学校看護)担当教員として8年目となりました。先日活動メンバーの先生方との会議でコアカリキュラムの活用についての報告がありました。学生の知識活用の実態として、看護学では発達課題に応じた身体のアセスメントし問題の抽出後の展開に課題があることが見えてきました。これはコアカリキュラムⅡ・Ⅲ群が中心となるところです。この積み上げができないとⅣ群の実践編へと到達できません。

今回、この活動を通して、自分の専門分野に対する責任と課題が明確になりました。養大協発信のコアカリキュラムを各大学が学生の学び内容の客観的指標として活用し、そこから現行カリキュラムの長短を明らかにし、そして今後の展望へと結びつく活動の一助となれるよう、私自身が会員の皆様からご指導賜りながら、還元できるよう活動していきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。



子どもの姿をどうみるか 前田美穂（東京医療保健大学）

このたび、委員を務めさせていただくことになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

現在、従来の養護教諭像の転換期にあります。社会の末端にいる子どもたちは、自身が生きるために、そして、家族のために、この社会情勢に必死に適応しています。特に少年期、ギャング・エイジとして、子ども同士で身体接触をしながら遊べる機会が無くなっています。しかし、子どもたちは互いに繋がりたい欲求から、ネット社会に足を踏み入れているのではないのでしょうか。

私は、このような時代に生きる養成大学の教員の一人として、子どもの実態とその背景にある社会を見つめながら、今起こっている問題に対応しつつ、この先に起こるであろう課題も予想したうえで、養護教諭の養成に携りたいと考えています。

浅学非才の身ではございますが、養成制度とカリキュラムの検討に尽力する所存でございますので、なにとぞ一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

養成カリキュラムの質的変換へ 諏澤ひろえ（京都光華女子大学）

今年度よりカリキュラム委員を拝命しました諏澤です。本学では、看護学科において養護教諭Ⅰ種免許状取得を目指す学生に教職課程を設けています。養護教諭課程カリキュラムは過密で、2年次は看護師教育に28単位上乘せ履修しなければなりません。また、3年次後期に半年間にわたる臨床実習を経て、ようやく4年次に養護実習に臨むことができます。この時の彼らの顔は不安に満ちていますが、養護実習終了後は、誇らしい表情にあふれ、社会人としての素養を身に付け、看護師等の国家試験合格に向けサポートをかける頃は自律的学習者に成長しています。

本学で養護教諭Ⅰ種免許取得を目指す学生は例年、学年全体の約1割に留まっていますが、今年度入学生は、約2.5割が教職科目を履修しています。カリキュラム委員として、養護教諭を目指す学生が、質的にも豊かな学びができるよう努めてまいりたいと思っています。

協議会活動報告

第7回役員会

日時：2022年1月9日（日）13:00～14:30

オンライン開催

<出席者>今野、遠藤、大川、鎌塚、亀崎、鈴木、竹鼻、松枝、三森（記録：松枝）

<協議事項>①2022年度総会、養成教育フォーラム、養成教育セミナー、情報交換会について②委員会活動における補正予算について

<報告事項>各委員会活動について

（庶務 三森寧子）

事務局からのお知らせ

4月になりましたら、基本調査や年会費納入のお願いを郵送させて戴きますのでご協力をお願い致します。なお、新たに3校から協議会加盟の申し込みを戴き理事一同喜んでおります。新年度になりましたら会員校の皆様にご紹介させて戴きます。

会計より

今年度は、業者に委託することで、オンラインで総会・フォーラム・セミナーを実施することができましたが、その他、委員会等の活動が制限される状況は続いております。そのため予算は予定通りの執行はできていないため、これらの詳細については2022年度総会にて報告させていただきます。引き続き、今後の活動を見据えて計画的な会計管理に努めて参ります。

2022年度の年会費についても納入をお願いします。振り込み時には、大学番号を大学名の前に入れて、学校番号+大学名で入力していただきますよう、ご協力をお願いいたします。

（会計担当：松枝睦美）

編集後記

COVID-19に振り回され続けて早2年。各大学でも、これまでと異なる困難を乗り越えてこられたことと思います。この協議会、そしてこのニューズレターが少しでも会員校の皆様のお役に立つことを願っております。新年度もどうぞよろしく願いいたします。

（広報・渉外委員会 鈴木裕子 亀崎路子）



日本養護教諭養成大学協議会

<http://www.j-yogo.jp/>

【事務局】女子栄養大学

TEL&FAX：049-282-3609（事務局）

Mail：yogojimu@j-yogo.jp

日本養護教諭関係団体連絡会活動報告

会長 遠藤伸子(女子栄養大学)

本協議会は、日本養護教諭関係団体連絡会（以下、連絡会）の構成団体であり、本協議会会長が連絡会副会長を務めています。

連絡会の設立目的や活動内容等詳細はHP (<https://jytc.org/info/staff/>) をご参照ください。

令和3年度の連絡会活動をご報告します。

1. 養護教諭や保健室におけるパソコン環境やICTに関する調査の実施

養護教諭のパソコン環境や情報活用の現状と課題を明らかにすることを目的に、2021年12月に養護教諭が利用するパソコン利用状況や情報活用状況、成果、情報モラル等に関する調査を行いました。*連絡会HPから報告書のダウンロードができます

2. 文部科学大臣宛に要望書の提出

昨年に続き、本年度も2022年1月12日に初等中等教育局健康教育・食育課、総合教育政策局教育人材政策課を訪問し要望書を提出しました。要望の柱は、以下4点です。

【要望内容】

1. 養護教諭ICT活用に関する議論（中央教育審議会など）の場の設定について
2. 養護教諭の複数配置の促進について
3. 養護教諭の資質能力の向上方策について
4. 高等学校養護教諭を「必置」とする法的整備について

*連絡会HPから要望書のダウンロードができます